

一年間を振り返って

理学療法学専攻長

富 樫 誠 二

大学の前の街路に整然と植えられている広葉樹の葉の鮮やかさとそしてやがて来る落葉に季節の移ろいを感じてきました。歩くごとにいつも葉の緑や黄を楽しんでいましたが、振り返るともうすでに白秋は終り玄冬になっています。今、師走の中、その言葉どおりに、年明けから始まる臨床実習や来年度の学事、シラバスの準備のため走りぬけようとしています。

大学は開学二年目を迎え、学生数も増え、新しくこられた教員や職員の方たちも加わりました。サークル数も増え、学内は活気に溢れています。昨年と比べて大きな学事的な流れの変化はなかったと思います。がしかし、一年、一年いろんなことがあったなあ、あるなあというのが実感です。

教務委員会では、今年度から学生による教員に対するアンケート調査を実施しました。この結果を教員にフィードバックし、Faculty Development (FD) 委員会と協働して教員の資質向上に向かって、FDを計りました。これは今後、継続して行いますが、学内の各種委員会(カリキュラム・FD・教務・学生など)の相互の連携が必要になってきます。学年進行とともに益々、教務多忙となってくる先生方ですが、各委員として重ねてご協力をお願いします。

一年を振り返ると学年進行とともに、大学内業務でやることがつぎつぎに起こってくるということを感じます。来年度から実習系のカリキュラムが益々増える理学療法学専攻では実習系をいかに運営するかが当面の課題です。専攻会義等で協議し、運営していきたいと思えます。これからも1年1年、臨床実習、国試対策などいろんな課題が出てくると思えますが、「4年間で多くのことを学び、自己を成長させること。それを学生と共に体現したい」と思えます。

最後に、悲しいことを書かなければなりません。理学療法学専攻の山本和儀先生が11月に永眠されました。先生は情熱的で正義感にあふれ野武士的風格をもった存在感の大きい方でした。いつもなにかあるごとに「本質を間違えなければいいんだ、誰のために為すべきなのかを考えればいい、地域だったら住民のため、そして大学だったら学生のためだよ。」とおしゃっていました。そのぶれない信念に畏敬をもって接してまいりました。「うれしいなあ、ありがとう！」といって手を握ってくれたことが昨日のように思い出されます。私こそ「ありがとうございました、山本和儀先生、もっともっとお話したかった一寂しいです。」

最後まで病と闘いながら地域リハビリに没入した先生らしいお別れだった気がします。心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌